

# スポーツウェアの規定～テニスウェアを中心として～

マスコミュニケーションゼミナール 1314069 米山 大樹

## 1. 研究動機・研究目的

東京オリンピックの開催がきまり、競技力の向上が計られる中で、メディアの視線が選手に向けられる分だけ必然的に選手が着用している競技用ユニフォームが露出される。筆者は体育大学に通っていることもあり、多くの学生が普段着として学生が練習着やウェアなどを着ているのを目にする。競技種目によって、襟や袖の有無、体へのフィット、裾の長さなどさまざまな種類のウェアがある。しかし、同一の競技種目の中では学年やカテゴリーが異なっても基本となる色が異なるのみで、形状や材質はほぼ同じである。同一競技の中で所属やスポンサーを示す企業名やロゴのサイズが大きく異なることはない。そうしたロゴが時に莫大な価値を持つ。筆者が実施してきたテニスでは、最も目立つ胸部にはウェアのメーカーロゴ以外にスポンサー企業のロゴや所属の掲示を見かけることはない。競技の組織化が進む中、それぞれのスポーツウェアは競技に支障が出ない範囲でデザインの差別化が計られている。また、全英オープン（ウィンブルドン選手権）ではレギュレーションとして全身白を基調としたものとされていることはよく知られているが、他の大会においてもウェアについてのレギュレーションが存在する。試合に使用できるテニスウェアは使用できないウェアとどのような違いがあるのか、また歴史や環境に影響されて変わっていくウェアや歴史や環境に影響を与えるウェアに疑問を抱いたのが本研究に着手した動機である。スポーツに専用のウェアが登場した経緯、その後のスポーツの商業化による影響など、ウェアについての歴史を概観し、他競技のウェアについてのレギュレーションと比較することにより、現在のテニスウェアのレギュレーションの意味について考察する。

## 2. 研究方法

研究対象のスポーツとして、対人型スポーツのテニス、ゴルフ、バドミントン、卓球、バスケットボール、サッカー、ラグビー、バレーボールを挙げ、非対人型スポーツとして陸上競技と水泳を挙げる。研究項目は、そのスポーツの起源、当時の服装、日本にいつ伝わってきたか、日本に伝わってきた時の服装の4つとして各競技の起源とウェアの歴史を研究した。次に、スポーツの商業化としてスポーツマネジメントの変化を調べた。現在のスポーツウェアとレギュレーションを調べる。次に、テニスウェアにおけるスポンサーとの関わりを調べる。

## 3. 主な結果と考察

テニス フランス王族 社交的な服装 1879年 トップ選手が服装の最先端  
現在)清潔で礼儀正しい習慣的に認められているテニスウェア  
ゴルフ スコットランド王家 襟付きシャツ 1901年 英国が手本  
現在)服装に厳しい規定はない カジュアルすぎる服装は避ける  
バドミントン バドミントン邸 貴族の礼服 1921年  
現在)対戦相手や観客に不快感を与えないような着色

卓球 イギリス 礼服 1908 年  
現在)使用する球の色と同じにならない服装

バスケットボール YMCA トレーニングスクール 短パン 1909 年  
現在)2015 年にパンツの長さを規制するルール改定

サッカー 中国の蹴鞠 地方独自のルール 1873 年海軍の余暇 軍の服装  
現在)ユニフォームへの表示としてメーカー識別標章が決められている

ラグビー ラグビー校 襟付き 1899 年  
現在)不快感や倫理的、道徳的に反しているものは禁止

バレーボール テニスやバドミントン 気軽な服装 1913 年  
現在)コントロール・コミュニティがチェックする

陸上競技 紀元前9世紀 私服 1874 年 軍の服装  
現在)ビブスに厳しい規定

水泳 1896 年 水着 1898 年 オリンピックを中心に変化  
現在)レーザーレーサーを禁止し、選手に配慮

#### 4. 結論

競技そのものの歴史やその時代の社会の影響だけでなく、テレビなどのメディアによる商業化により、様々なスポーツのウェアやユニフォームが現在の形になった。競技自体の伝統が今後も引き継がれる部分は勿論あるものの、これからはスポーツをビジネスとして捉える傾向が強まるだろう。本研究の動機であったテニスのウェアについても、普段着としての普及を考えると襟なしのウェアが流行してくることが予想できる。そうなった場合に問題となるのがスポンサー企業のバッティングである。特に巨額な料金を支払っている大会スポンサーは選手が同業種で異なる企業のロゴをつけることに対して不快に感じるかもしれない。しかし、卓球やバドミントンですで見られるように、こうした、テニスの場合も選手個人のスポンサーと大会スポンサーのバッティングが認められ、ユニフォームに様々なロゴマークが載る日が近いかもしれない。しかし、選手たちのスポーツをする行為を妨げたり、競技の質を変えてしまったりするような変更は断じて避けねばならない。

#### 5. 卒業論文の執筆を終えて

様々なスポーツの起源、ウェアの歴史を調べたことによって、本研究のテニスの商業化が遅れていることがわかった。全英大会(ウィンブルドン選手権)に至っては、全身白色のウェアを着るという他にはない規定が際立って見えた。また、大学の体育会テニス部が公式の大会の際に着用するウェアに大学のロゴや校章が無いが他のスポーツでは大学のロゴや校章はあり、ここでも商業化が遅れているということが再確認できた。スポーツに商業化という波が来ているということがより実感することができ、スポーツ自体がもっと発展してほしい。

本研究を支えてくださったゼミの担当教員である神原先生と、いつもわからないことを教えてくださった小池先輩、唯一のゼミの同期である松本君に感謝します。